

## 2 活動指標（案）について

成果目標を実現するための活動指標として、障害福祉サービス、相談支援、障害児通所支援、障害児相談支援、地域生活支援事業等の必要量の見込み及びその確保のための方策を定めます。

### 1. 指定障害福祉サービス等・指定通所支援等

#### (1) サービスの概要

サービス名	内容
訪問系サービス	
居宅介護	自宅で、入浴、排せつ、食事の介護等を行います。
重度訪問介護	重度の肢体不自由者、知的障害者及び精神障害者で常に介護を必要とする人に、自宅で入浴、排せつ、食事の介護、外出時における移動支援などを総合的に行います。
同行援護	重度の視覚障害により、移動が困難な人に外出時に同行し、移動に必要な情報を提供するとともに、外出する際の必要な援助を行います。
行動援護	自己判断能力が制限されている人が行動するときに、危険を回避するために必要な支援、外出支援を行います。
重度障害者等包括支援	介護の必要性がとて高い人に、居宅介護など複数のサービスを包括的にを行います。
日中活動系サービス〔介護給付〕	
生活介護	施設や通所において、常に介護を必要とする人に、昼間、入浴、排せつ、食事の介護などを行います。
療養介護	医療と常時介護を必要とする人に、医療機関で機能訓練、療養上の管理、看護、介護及び日常生活の世話をを行います。
短期入所	自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め施設で入浴、排せつ、食事の介護などを行います。
日中活動系サービス〔訓練等給付〕	
自立訓練 （機能訓練）	身体障害者を対象に、身体的リハビリや歩行訓練、コミュニケーション、家事などの訓練、日常生活上の相談支援や就労移行支援事業所などの関係機関との連携調整などの支援を行います。
自立訓練 （生活訓練）	知的障害者・精神障害者を対象に、食事や家事などの日常生活能力を向上するための支援、日常生活上の相談支援や就労移行支援事業所などの関係機関との連携調整などの支援を行います。
宿泊型自立訓練	一定期間、夜間の居住の場を提供し、帰宅後の生活能力等の維持・向上のための訓練を実施します。また、地域移行に向けた関係機関との連絡調整を行います。

サービス名		内容
	就労移行支援	一般企業などへの就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。
	就労継続支援 A型	一般企業での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。A型では、雇用契約を結んで就労の場を提供します。
	就労継続支援 B型	一般企業での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。B型では企業などやA型での就労経験がある人であって、年齢や体力面で雇用が難しい人や、企業やA型利用に結びつかなかった人などを対象とします。
	就労定着支援	就労移行支援等の利用を経て一般就労へ移行した障害者で就労に伴う環境変化により生活面の課題が生じている人に、相談を通じて生活面の課題を把握するとともに、企業や関係機関等との連絡調整やそれに伴う課題解決に向けて必要となる支援を実施します。
居住系サービス		
	自立生活援助	障害者支援施設やグループホーム等を利用していた障害者で一人暮らしを希望する者等を対象に、定期的に居宅を訪問し生活状況の確認及び助言、医療機関等との連携調整を行うとともに、利用者への相談支援を行います。
	共同生活援助 (グループホーム)	障害者に対して、夜間や休日、共同生活を行う住居で、相談や日常生活上の援助を行います。
	施設入所支援	生活介護または自立訓練、就労移行支援等の対象者に対し、日中活動と合わせて、夜間などにおける入浴、排せつ、食事の介護などを提供します。
相談支援		
	計画相談支援	障害福祉サービスを利用する全ての障害者を対象に、支給決定又は支給決定の変更前後に、サービス等利用計画案を作成するとともに、一定の利用の期間ごとにサービス等の利用状況のモニタリングを行います。
地域 相談支援	地域 移行 支援	障害者支援施設等に入所している人又は入院している精神障害者を対象に、地域生活に移行するための相談や住居の確保、サービス提供事業所への同行支援等を行います。
	地域 定着 支援	施設や病院から地域生活へ移行した人や家族との同居から一人暮らしに移行した障害者等に対し、障害の特性に起因して生じる緊急の事態等に常時相談や対応を行います。

サービス名	内容
障害児通所支援	
児童発達支援	通所により、日常生活における基本的動作の指導、自活に必要な知識や技能の付与または集団生活への適応訓練、その他必要な支援を行います。
放課後等 デイサービス	学校授業終了後や休業日に、通所により生活能力向上のために必要な訓練、社会との交流の促進などの支援を行います。
保育所等訪問 支援	指導経験のある児童指導員や保育士が、保育所などを訪問し、障害児やスタッフに対し、障害児が集団生活に適応するための専門的な支援を行います。
居宅訪問型 児童発達支援	重症心身障害児などの重度の障害児等であって、児童発達支援等の障害児通所支援を受けるために外出することが著しく困難な障害児に、障害児の居宅を訪問し、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与等の支援を実施します。
医療型 児童発達支援	上肢、下肢、体幹の機能に障害のある児童に対し、児童発達支援及び治療を行います。
障害児相談支援	障害児通所の利用に際し、障害児支援利用計画を作成。また、通所支援開始後は、モニタリングを行う等の支援を行います。
医療的ケア児コーディネーター	医療的ケアが必要な障害児が、地域生活において必要となる関連分野の支援の調整を行います。

### (3) 各サービスの現状と見込み

#### (3-1) 訪問系サービス

サービス名	居宅介護		
実績と現状	第5期計画期間中は、利用者数は見込みを下回り、利用時間は見込みを上回る値で推移しています。 各年度の実績の比較では、利用時間および利用者数ともに一貫して増加しています。		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	14,632時間 817人	15,217時間 858人	15,826時間 901人
推計の考え方	居宅介護をはじめとする訪問系サービスは、障害者の自宅での日常生活を援助するものとして、住み慣れた地域で暮らし続けるための支援の根幹となるサービスです。第5期計画期間中の傾向、障害者数の推移および指定障害福祉サービス事業所の実態調査(以下、「実態調査」という。)を踏まえると、第6期計画の期間中も、利用者数、利用時間ともに増加していくものと見込みます。		
確保のための方策	■サービス事業者に対して情報の提供等を行い、参入促進を図りながら必要見込み量の確保に努めます。 ■ホームヘルパーの養成・確保について、関係機関等が実施する研修に関する情報提供を行います。 ■ホームヘルパーに対する講座・講習などの受講を勧奨し、質の高いサービスの確保に努めます。		

サービス名	重度訪問介護		
実績と現状	第5期計画期間中は、利用者数は見込みを若干下回り、利用時間は見込みを大きく下回る値で推移しています。 各年度の実績の比較では、利用者数はほぼ一定であるのに対し、利用時間は令和元年度に減少しましたが、令和2年度は増加する見込みです。		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	5,629時間 30人	5,572時間 30人	5,517時間 29人
推計の考え方	利用者が30人程度と少ないため、利用者数の増減により大きく影響を受ける可能性があります。第5期計画期間中の傾向および実態調査を踏まえ、利用者数、利用時間ともに同程度にて推移していくものと見込みます。		
確保のための方策	■居宅介護と同様に取り組みます。		

サービス名	同行援護		
実績と現状	<p>第5期計画期間中は、利用者数、利用時間ともに見込みを大きく下回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、利用者数、利用時間ともに令和元年度は増加しましたが、令和2年度は減少する見込みです。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	933時間	933時間	933時間
	63人	64人	64人
推計の考え方	<p>第5期計画期間中の傾向を踏まえ、今後は利用者数、利用時間ともに同程度にて推移すると見込みます。</p>		
確保のための方策	<p>■居宅介護と同様に取り組みます。</p>		

サービス名	行動援護		
実績と現状	<p>第5期計画期間中は、利用者数は見込みを下回り、利用時間は見込みを大きく下回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、利用者数、利用時間ともに令和元年度は増加しましたが、令和2年度は減少する見込みです。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	360時間	367時間	374時間
	15人	15人	15人
推計の考え方	<p>第5期計画期間中の傾向および実態調査を踏まえ、今後は利用者数は一定に、利用時間は微増で推移すると見込みます。</p>		
確保のための方策	<p>■市内に対応できる事業所（市内に3事業所のみ）が限られているため、事業所に対し指定基準等の情報提供を行い、また、関係機関が行う強度行動障害に対する研修等を周知することで対応できるヘルパーの増加を図るなど、事業所の確保に努めます。</p>		

サービス名	重度障害者等包括支援		
実績と現状	<p>第5期計画の見込みのとおり利用者はいない状況です。</p> <p>また、市内に同サービスを提供する事業所はありません。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	0時間	0時間	0時間
	0人	0人	0人
推計の考え方	<p>第5期計画期間中の実績を踏まえると、今後利用はないと見込みます。</p>		

確保のための方策	<p>■サービス提供を行える要件が厳しい等の理由から、サービスを提供する事業所の整備は進んでおりません。令和2年度（2020年度）現在で九州に1事業所しかありませんので、既存のサービスを組み合わせることで対応していきます。</p>
----------	---

### （3-2-①） 日中活動系サービス〔介護給付〕

サービス名	生活介護		
実績と現状	<p>第5期計画期間中は、利用者数、利用日数ともに見込みを下回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、利用人数は一貫して増加して推移していますが、利用日数は令和2年度に減少する見込みです。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	15,425人日	15,733人日	16,048人日
	797人	813人	830人
推計の考え方	第5期計画期間中の傾向を踏まえ、利用者数、利用日数ともに増加して推移すると見込みます。		
確保のための方策	<p>■利用者の多くは入所施設で実施されておりますが、それ以外での事業所数が増えている状況です。現在の定員数でも第6期計画期間の利用者数をまかなえる見込みですが、市の中央部など地域によっては整備が進んでいない状況があります。今後の整備状況を見ながら、必要な地域への整備が進められるよう努めます。</p> <p>■なお、必要なサービス量が確保できたと考えられる場合には、新たな指定を行わないことも可能とします。</p>		

サービス名	療養介護		
実績と現状	<p>第5期計画期間中の利用者数は、ほぼ見込量どおりに推移しております。</p> <p>医療的ケアに加え、常時の介護を要する特に重度の方が対象となっているため、大きな利用者数の増減はありません。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	109人	111人	113人
推計の考え方	第5期計画期間中の傾向および実態調査を踏まえ、今後は微増で推移するものと見込みます。		
確保のための方策	<p>■相談支援等を通じて、サービスの提供につなげていきます。市内に対応できる事業所（市内に1事業所のみ）に限られているため、市外の事業所を活用することも含めて、提供体制の確保に努めます。</p>		

サービス名	短期入所		
実績と現状	<p>福祉型については、第5期計画期間中は令和元年度まで見込みを上回り、令和2年度は見込みを下回る値で推移しております。医療型については、見込みを大きく下回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、福祉型は令和元年度は増加しましたが、令和2年度は減少する見込みです。医療型は一貫して減少する見込みです。</p> <p>自立した生活の慣らしの場として、また、介護者の負担軽減のため重要な機能を果たしていると考えられます。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	人日	人日	人日
	(福祉型) 640人日 (医療型) 79人日	(福祉型) 698人日 (医療型) 79人日	(福祉型) 761人日 (医療型) 80人日
	人	人	人
	(福祉型) 132人 (医療型) 15人	(福祉型) 141人 (医療型) 14人	(福祉型) 151人 (医療型) 14人
推計の考え方	<p>第5期計画期間中の傾向および実態調査を踏まえ、福祉型は増加して推移し、医療型は同程度にて推移すると見込みます。</p>		
確保のための方策	<p>■本市の場合、グループホームや入所施設の空部屋を利用した「空床型」の利用が大部分を占めており定員の確保が不安定となるため、「併設型」の整備を促進していきます(福祉型)。</p> <p>■受け入れができる施設が限られているため、定員の確保が課題です。市外の施設の利用も含め、提供体制の確保に努めていきます(医療型)。</p>		

(3-2-②) 日中活動系サービス〔訓練等給付〕

サービス名	自立訓練(機能訓練)		
実績と現状	<p>第5期計画期間は、利用者数、利用時間ともに見込みを大きく上回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較についても、利用者数、利用日数ともに一貫して増加しています。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	151人日	172人日	196人日
	8人	9人	9人
推計の考え方	<p>利用者が1桁台と極端に少ないため、利用人数の増減によって大きく影響を受ける可能性があります。第5期計画期間中の傾向を踏まえ、大幅な利用者の増加は見込まれないと見込みます。</p>		
確保のための方策	<p>■現時点において、市内に対応できる指定事業所はない状況です。より身近な地域でサービスを受けることができるよう、事業所の整備促進を図っていきます。</p>		

サービス名	自立訓練（生活訓練）		
実績と現状	<p>第5期計画期間を通して、利用者数・利用日数ともに見込みを上回る値で推移しております。</p> <p>各年度の実績の比較では、利用者数は一貫して増加しておりますが、利用日数は令和2年度に減少する見込みです。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	600人日 57人	612人日 62人	624人日 68人
推計の考え方	第5期計画期間中の傾向を踏まえると、今後は微増で推移するものと見込みます。		
確保のための方策	<p>■現在、当サービスは需要を満たしております。今後は利用者のニーズの把握等に努め、必要に応じて整備を図っていきます。</p>		

サービス名	宿泊型自立訓練		
実績と現状	<p>第5計画期間中においては、利用者数、利用日数ともにほぼ見込みどおりに推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、利用者数、利用日数ともにほぼ一定で推移しています。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	332人日 13人	328人日 13人	325人日 12人
推計の考え方	第5期計画期間中の傾向を踏まえると、今後は同程度で推移すると見込みます。		
確保のための方策	<p>■共同生活援助など類似サービスの整備状況や利用者のニーズの把握に努め、必要に応じて整備を促進していきます。</p>		

サービス名	就労移行支援		
実績と現状	<p>第5期計画期間を通して、利用者数、利用日数ともに大きく見込みを下回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、利用人数、利用日数ともに減少して推移しています。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	1,120人日 72人	1,019人日 66人	927人日 61人

推計の考え方	第5期計画期間中の傾向を踏まえると、今後は微減で推移すると見込みます。
確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>■国の指針により、福祉施設から一般就労への移行者を令和5年度中に令和元年度実績の1.30倍以上増加することとされています。今後は利用希望の掘り起こしのため、相談支援などを通じて利用促進を図っていきます。</li> </ul>

サービス名	<b>就労継続支援（A型）</b>		
実績と現状	<p>第5期計画期間中について、利用者数、利用日数ともにほぼ見込みどおりに推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、一貫して増加傾向にあります。前年度からの伸びは少しずつ鈍化してきている状況です。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	10,503人日 542人	11,553人日 597人	12,708人日 656人
推計の考え方	第5期計画期間中の傾向を踏まえ、利用者数・利用日数ともに、今後増加して推移すると見込みます。		
確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>■現在、市内の事業所数は増加して推移しています。</li> <li>■なお、必要なサービス量が確保できたと考えられる場合には、新たな指定を行わないことも可能とします。</li> </ul>		

サービス名	<b>就労継続支援（B型）</b>		
実績と現状	<p>第5期計画期間中について、令和元年度より見込みを大きく上回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、平成30年度まで前年度からの伸びが鈍化していましたが、令和元年度より前年度からの伸びが大きくなってきている状況です。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	13,167人日 820人	14,352人日 902人	15,644人日 992人
推計の考え方	第5期計画期間中の傾向を踏まえ、利用者数・利用日数ともに、今後増加して推移すると見込みます。		
確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>■現在、当サービスは需要を満たしておりますが、市内の事業所数は増加して推移しています。</li> <li>■なお、必要なサービス量が確保できたと考えられる場合には、新たな指定を行わないことも可能とします。</li> </ul>		

サービス名	就労定着支援		
実績と現状	平成 30 年度(2018 年度)からの新たなサービスで、第5期計画期間中を通して、見込みを下回る値で推移しています。 各年度の実績の比較については、事業の認知に伴い年々増加して推移しています。		
サービス見込量 (1 か月当り)	R3 年度(2021 年度)	R4 年度(2022 年度)	R5 年度(2023 年度)
	94 人	143 人	217 人
推計の考え方	本市では、第5期計画期間中の傾向を踏まえ、利用者数・利用日数ともに今後も増加して推移すると見込めます。		
確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>■国の指針により、令和 5 年度における就労移行支援事業所を通じて一般就労する者のうち 7 割が当事業を利用することとされています。今後、当事業のニーズは高まると予想されることから、事業者に対して情報の提供等を行い、参入促進を図りながら必要見込み量の確保に努めます。</li> </ul>		

### (3-3) 居住系サービス

サービス名	自立生活援助		
実績と現状	平成 30 年度(2018 年度)からの新たなサービスで、第5期計画期間中を通して、見込みを大きく下回る値で推移しています。 実績については、平成 30 年度と令和 2 年度にわずかに利用があります。		
サービス見込量 (1 か月当り)	R3 年度(2021 年度)	R4 年度(2022 年度)	R5 年度(2023 年度)
	2 人 うち精神 2 人	2 人 うち精神 2 人	2 人 うち精神 2 人
推計の考え方	利用者が 1 桁台と極端に少ないため、利用人数の増減によって大きく影響を受ける可能性がありますが、第5期計画期間中の傾向を踏まえると、今後は同程度で推移すると見込みます。		
確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域移行支援、地域定着支援等の連携により、必要なサービスの確保に努めます。</li> </ul>		

サービス名	共同生活援助（グループホーム）		
実績と現状	第5期計画期間を通して、ほぼ見込みどおりに推移しています。 各年度の実績の比較では、一貫して増加しています。		
サービス見込量 (1 か月当り)	R3 年度(2021 年度)	R4 年度(2022 年度)	R5 年度(2023 年度)
	422 人 うち精神 248 人	464 人 うち精神 295 人	510 人 うち精神 351 人

推計の考え方	第5期計画期間中の傾向や実態調査、さらに重度化や高齢化した方の地域移行の受け皿として、今後の需要は一層高まると予想されます。今後も利用者数は増加して推移すると見込みます。
確保のための方策	■グループホームの利用は、施設整備が進むことで増加する面もあるため、施設整備補助などの活用により事業所の整備を促進していき、さらに、利用者の選択肢を広げるためにも、既存の事業所に加え、多様な形態のグループホームを整備していきます。

サービス名	施設入所支援		
実績と現状	第5期計画期間を通して、見込みを上回る状態で推移しています。各年度の実績の比較では、一貫して同水準となっており、国の方針を受けて、入所者数の削減に努めてきましたが、目標を達成できていません。		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	372人	370人	368人
推計の考え方	国の示す方針を踏まえ、令和元年度(2019年度)末の利用者(374人)から1.6%の削減を目標とします。		
確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域生活への移行を進める中で、入所者数の削減を進めていく必要はありますが、真に必要としている方に、相談支援等を通じてサービスの提供につながるよう努めていきます。</li> <li>■耐震化基準など安全性に問題のある老朽施設については、入所者の安全確保のため、施設の更新を促していきます。</li> </ul>		

#### (3-4) 相談支援

サービス名	計画相談支援		
実績と現状	第5期計画期間中について、ほぼ見込みどおりに推移しています。各年度の実績の比較については、一貫して増加しています。		
サービス見込量	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	2,966人	3,174人	3,396人
推計の考え方	第5期計画期間中の傾向、障害者数の推移および実態調査を踏まえ、今後も増加して推移すると見込みます。		
確保のための方策	■サービス事業者に対して情報の提供等を行い、参入促進を図りながら必要見込み量の確保に努めます。また、相談員に対する研修などの受講を勧奨し質の高いサービスの確保に努めます。		

サービス名	地域移行支援		
実績と現状	第5期計画期間中については、令和元年度より見込みを上回る値で推移しております。 各年度の実績の比較については、令和2年度に減少する見込みです。		
サービス見込量	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	19人 うち精神 13人	16人 うち精神 11人	14人 うち精神 9人
推計の考え方	第5期計画期間中の傾向を踏まえると、今後は微減で推移すると見込みます。		
確保のための方策	■現在、当サービスは需要を満たしております。今後は利用者のニーズの把握等に努め、必要に応じて整備を図っていきます。		

サービス名	地域定着支援		
実績と現状	第5期計画期間中については、見込みを上回る値で推移しております。 各年度の実績の比較については、一貫して増加しています。		
サービス見込量	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	74人 うち精神 67人	95人 うち精神 81人	122人 うち精神 98人
推計の考え方	第5期計画期間中の傾向を踏まえると、今後は増加して推移すると見込みます。		
確保のための方策	■地域移行支援と同様に取り組みます。		

### (3-5) 障害児通所支援

サービス名	児童発達支援		
実績と現状	第5期計画期間中においては、利用人数・利用日数ともにほぼ見込みどおりに推移しております。 各年度の実績の比較では、一貫して増加傾向にありますが、前年度からの伸びは鈍化傾向にあります。		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	1,452人日 151人	1,511人日 158人	1,541人日 163人
推計の考え方	第5期計画期間中の実績を踏まえ、利用人数・利用日数ともに今後も増加するものと見込まれますが、前年度からの伸びは鈍化して推移するものと予測します。		

確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>■適正な運用が図られるよう、相談支援事業所など関係機関との連絡調整を図り、一定のサービスの確保に努めていきます。</li> <li>■なお、必要なサービス量が確保できたと考えられる場合には、新たな指定を行わないことも可能とします。</li> </ul>
----------	---

サービス名	<b>放課後等デイサービス</b>		
実績と現状	<p>第5期計画期間を通し、利用人数はほぼ見込みどおりでしたが、利用日数は見込みを大きく下回る状態で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、一貫して増加傾向にありますが、前年度からの伸びは少しずつ鈍化してきている状況です。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	11,628人日	12,442人日	12,815人日
	756人	816人	849人
推計の考え方	<p>第5期計画期間中の実績および実態調査を踏まえ、利用人数・利用日数ともに今後も増加するものと見込まれますが、前年度からの伸びは鈍化して推移するものと予測します。</p>		
確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>■現在、市内の事業所数は大きく増加して推移しています。</li> <li>■なお、必要なサービス量が確保できたと考えられる場合には、新たな指定を行わないことも可能とします。</li> </ul>		

サービス名	<b>保育所等訪問支援</b>		
実績と現状	<p>第5期計画期間を通し、利用人数、利用日数ともに見込みを上回る値で推移しています。</p> <p>各年度の実績の比較では、令和元年度まで増加しておりますが、令和2年度は前年度と同程度で推移しています。</p>		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	110人日	134人日	163人日
	61人	74人	90人
推計の考え方	<p>第5期計画期間中の実績および実態調査を踏まえ、利用人数・利用日数ともに今後も増加するものと見込みますが、前年度からの伸びは鈍化して推移するものと予測します。</p>		
確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>■現在、当サービスは需要を満たしております。今後は利用者のニーズの把握等に努め、必要に応じて整備を図っていきます。</li> </ul>		

サービス名	<b>居宅訪問型児童発達支援</b>
実績と現状	<p>平成30年度(2018年度)からの新たなサービスです。</p> <p>第5期計画期間中は令和2年度に若干名の利用がありました。</p>

サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	5人日	10人日	15人日
	1人	2人	3人
推計の考え方	第5期計画期間中の実績を踏まえ、事業の認知が進むにつれて若干名の利用を見込みます。		
確保のための方策	■現時点において、市内に対応できる事業所はない状況です。利用希望者には、市外の施設を活用し、サービスの確保を図っていくこととなります。今後、需要が大きくなるのであれば、市内の事業所に開所を働きかけていくことも検討します。		

サービス	医療型児童発達支援		
実績と現状	第5期計画期間中の利用実績はありません。		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	0人日	4人日	8人日
	0人	1人	2人
推計の考え方	第5期計画期間中の実績を踏まえ、事業の認知が進むにつれて若干名の利用を見込みます。		
確保のための方策	■現時点において、市内に対応できる事業所はない状況です。利用希望者には、市外の施設を活用し、サービスの確保を図っていくこととなります。今後、需要が大きくなるのであれば、市内の事業所に開所を働きかけていくことも検討します。		

### (3-6) 障害児相談支援

サービス	障害児相談支援		
実績と現状	第5期計画期間中については、見込みを若干下回る値で推移しています。各年度の実績の比較については、一貫して増加しています。		
サービス見込量 (1か月当り)	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	596人	679人	774人
推計の考え方	第5期計画期間中の傾向、障害者数の推移および実態調査を踏まえ、今後も増加して推移すると見込みます。		
確保のための方策	■計画相談支援と同様に取り組みます。		

(3-7) 医療的ケア児コーディネーター

サービス	医療的ケア児コーディネーター		
実績と現状	医療的ケアが必要な方を含む重症心身障害児・者及びその家族に対して、医療・福祉の両面に通じたコーディネーターを設置し、必要な相談支援・障害福祉サービス等の調整などを実施しています。		
配置人数	R3年度(2021年度)	R4年度(2022年度)	R5年度(2023年度)
	2人	2人	2人
推計の考え方	医療的ケア児の生活の難しさや家族の介護負担等を考慮すると、本事業の重要性は高い一方、コーディネーターとして幅広い知識や経験が求められ、令和2年度(2020年度)に配置しているコーディネーターを軸として、今後も事業を推進していきます。		
確保のための方策	■各種研修等を通じて、コーディネーターの養成・確保に努めます。		

第6期市障害福祉計画及び第2期市障害児福祉計画における障害福祉サービス等の必要見込量について

・「時間」: 月間のサービス提供時間  
 ・「人日」: 月間の利用人員(実人数)×1人1月当たりの平均利用日数  
 ・「人」: 月間の利用人数(実人数)  
 ・相談支援: 年間

見込量<実績・・・過剰サービス 「+表示」  
 見込量>実績・・・基盤不足 「▲表示」

【令和3年度～令和5年度までの見込量推計の基本的な考え方】  
 ①原則は、平成27年度から令和2年度実績見込までの5ヶ年の平均伸び率等で算出。  
 ②障害福祉サービス事業所実態調査「相談支援事業所等から見た各サービスの過不足感」の回答において、「不足感」が「過剰感」の2倍以上のサービスは、「令和2年度実績見込」と「令和元年度までの平均伸び率等で算出した令和2年度推計値」のいずれか大きい数値を採用して算出

サービス種別	単位	実績・見込量(1ヶ月あたりの実績・見込量)									実態調査で不足感・過剰感が2:1以上	見込量の算出方法(考え方)	見込量(1ヶ月あたりの見込量)			
		H30年度			R1年度			2年度					3年度	4年度	5年度	
		見込	実績	実績-見込	見込	実績	実績-見込	見込	実績見込 実績に基づく	実績-見込			見込	見込	見込	
訪問系	居宅介護	時間	12,296	12,885	589	12,665	13,528	863	13,045	13,878	833	○	・R2年度は、過去5年間(H27～R1)の平均伸び率を、R1年度実績に乘じて算出 ・R3年度以降は、過去5年間(H28～R2)の平均伸び率にて算出	14,632	15,217	15,826
		人	735	707	▲28	794	734	▲60	858	741	▲117			817	858	901
	重度訪問介護	時間	6,266	5,566	▲700	6,580	5,289	▲1,291	6,909	5,685	▲1,224	○	・R2年度は、実績見込 ・R3年度以降は、過去5年間(H28～R2)の平均伸び率にて算出	5,629	5,572	5,517
		人	32	27	▲5	32	27	▲5	33	30	▲3			30	30	29
	同行援護	時間	1,236	1,008	▲228	1,409	1,071	▲338	1,606	933	▲673	○	・R2年度は、実績見込 ・R3年度以降は、過去5年間(H28～R2)の平均伸び率にて算出	933	933	933
		人	76	65	▲11	87	69	▲18	99	62	▲37			63	64	64
	行動援護	時間	411	318	▲93	452	353	▲99	497	252	▲245	○	・R2年度は、過去5年間(H27～R1)の平均伸び率を、R1年度実績に乘じて算出 ・R3年度以降は、過去5年間(H28～R2)の平均伸び率にて算出	360	367	374
		人	15	12	▲3	18	15	▲3	20	12	▲8			15	15	15
	重度障害者等包括支援	時間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	・過去5年間の実績なし	0	0	0
		人	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0
日中活動系	生活介護	人日	15,102	14,979	▲123	15,555	15,240	▲315	16,021	15,122	▲899	○	・R2年度は、実績見込 ・R3年度以降は、過去5年間(H28～R2)の平均伸び率にて算出	15,425	15,733	16,048
		人	761	767	6	784	777	▲7	807	782	▲25			797	813	830
	療養介護	人	100	99	▲1	103	104	1	106	105	▲1	○	・R2年度は、過去5年間(H27～R1)の平均伸び率を、R1年度実績に乘じて算出 ・R3年度以降は、過去5年間(H28～R2)の平均伸び率にて算出	109	111	113
		人日	395	513	118	399	554	155	403	393	▲10			640	698	761
	福祉型短期入所	人	100	105	5	102	119	17	104	78	▲26	○	・R2年度は、過去5年間(H27～R1)の平均伸び率を、R1年度実績に乘じて算出 ・R3年度以降は、過去5年間(H28～R2)の平均伸び率にて算出	132	141	151
		人日	112	86	▲26	122	80	▲42	132	13	▲119			79	79	80
	医療型短期入所	人	28	18	▲10	32	17	▲15	36	4	▲32	○	・R2年度は、過去5年間(H27～R1)の平均伸び率を、R1年度実績に乘じて算出 ・R3年度以降は、過去5年間(H28～R2)の平均伸び率にて算出	15	14	14
		人日	35	81	46	26	111	85	19	132	113			151	172	196
	自立訓練(機能訓練)	人	2	5	3	2	7	5	1	7	6	○	・R2年度は、実績見込 ・R3年度以降は、過去5年間(H28～R2)の平均伸び率にて算出	8	9	9
		人日	491	552	61	481	643	162	471	588	117			600	612	624
	自立訓練(生活訓練)	人	28	39	11	27	50	23	27	56	29	○	・R2年度は、実績見込 ・R3年度以降は、過去5年間(H28～R2)の平均伸び率にて算出	57	62	68
		人日	300	316	16	303	307	4	306	335	29			332	328	325
	宿泊型自立訓練	人	13	12	▲1	13	12	▲1	13	12	▲1	○	・R2年度は、実績見込 ・R3年度以降は、過去5年間(H28～R2)の平均伸び率にて算出	13	13	12
		人日	1,962	1,661	▲301	2,060	1,478	▲582	2,163	1,231	▲932			1,120	1,019	927
就労移行支援	人	117	94	▲23	125	86	▲39	134	78	▲56	○	・R2年度は、実績見込 ・R3年度以降は、過去5年間(H28～R2)の平均伸び率にて算出	72	66	61	
	人日	8,773	8,362	▲411	9,299	9,211	▲88	9,578	9,548	▲30			10,503	11,553	12,708	
就労継続支援(A型)	人	448	427	▲21	475	474	▲1	489	493	4	○	・R2年度は、実績見込 ・R3年度以降は、過去5年間(H28～R2)の平均伸び率にて算出	542	597	656	
	人日	10,290	10,260	▲30	10,598	11,086	488	10,704	12,080	1,376			13,167	14,352	15,644	
就労継続支援(B型)	人	619	619	0	632	683	51	638	745	107	○	・R2年度は、実績見込 ・R3年度以降は、過去5年間(H28～R2)の平均伸び率にて算出	820	902	992	
	人	90	27	▲63	90	42	▲48	90	62	▲28			94	143	217	
居住系	自立生活援助	人	20	2	▲18	20	0	▲20	20	2	▲18	○	・R2年度と同程度で推移すると見込む (H30、R2のみ実績あり)	2	2	2
		人		2			0			2				2	2	2
	精神障害者の自立生活援助	人										○	・R2年度と同程度で推移すると見込む (H30、R2のみ実績あり)			
		人	331	326	▲5	364	349	▲15	400	384	▲16			422	464	510
	精神障害者の共同生活援助	人		151			177			208		○	・R2年度は、実績見込 ・R3年度以降は、過去5年間(H28～R2)の平均伸び率にて算出	248	295	351
施設入所支援	人	362	376	14	360	374	14	358	375	17	○			・国指針より、令和5年度末が令和元年度末入所者数の1.6%削減と見込む	372	370

サービス種別	単位	実績・見込量(1ヶ月あたりの実績・見込量)									実態調査で 不足感・過剰感が 2:1以上	見込量の算出方法(考え方)	見込量(1ヶ月あたりの見込量)			
		H30年度			R1年度			2年度					3年度	4年度	5年度	
		見込	実績	実績- 見込	見込	実績	実績- 見込	見込	実績見込 実績に基づく	実績- 見込			見込	見込	見込	
相談支援(※)	計画相談支援	人 年間	2,416	2,420	4	2,566	2,567	1	2,686	2,761	75	○	・R2年度は、過去3年間(H29~R1)の平均伸び率を、R1年度実績に乗じて算出 ・R3年度以降は、過去3年間(H30~R2)の平均伸び率にて算出 (H28まで著しい増加)	2,966	3,174	3,396
	地域相談支援 (地域移行支援)	人 年間	12	3	▲9	13	26	13	14	22	8		・R2年度は、実績見込 ・R3年度以降は、過去5年間(H28~R2)の対前年比中央値にて算出 (各年度著しい増減)	19	16	14
	精神障害者の地域相談支援 (地域移行支援)	人 年間		3			19			16			・R2年度は、実績見込 ・R3年度以降は、過去5年間(H28~R2)の対前年比中央値にて算出 (各年度著しい増減)	13	11	9
	地域相談支援 (地域定着支援)	人 年間	15	21	6	17	38	21	19	58	39		・R2年度は、実績見込 ・R3年度以降は、過去5年間(H28~R2)の対前年比中央値にて算出 (各年度著しい増減)	74	95	122
	精神障害者の地域相談支援 (地域定着支援)	人 年間		18			38			56			・R2年度は、実績見込 ・R3年度以降は、過去5年間(H28~R2)の対前年比中央値にて算出 (各年度著しい増減)	67	81	98
障害児 通所支援	児童発達支援	人日	1,233	1,266	33	1,357	1,328	▲29	1,424	1,370	▲54		・R2年度は、実績見込 ・R3年度から対前年比が通減し、令和6年度をもって対前年比1.00と見込む	1,452	1,511	1,541
		人	121	117	▲4	135	126	▲9	143	140	▲3			151	158	163
	放課後等デイサービス	人日	7,870	6,965	▲905	9,523	8,314	▲1,209	10,570	8,486	▲2,084	○	・R2年度から前年比が通減し、R6年度をもって対前年比1.00と見込む (H29年度から対前年比が通減している)	11,628	12,442	12,815
		人	524	485	▲39	598	582	▲16	640	698	58			756	816	849
	保育所等訪問支援	人日	58	58	0	60	77	17	61	79	18	○	・R2年度は、過去3年間(H29~R1)の平均伸び率を、R1年度実績に乗じて算出 ・R3年度以降は、過去3年間(H30~R2)の平均伸び率にて算出 (H28年度まで著しい増加)	110	134	163
		人	35	37	2	39	43	4	41	44	3			61	74	90
	居宅訪問型児童発達支援	人日	20	0	▲20	20	0	▲20	20	5	▲15		・R2年度実績から微増で見込む	5	10	15
人		10	0	▲10	10	0	▲10	10	1	▲9		1		2	3	
医療型児童発達支援	人日	0	0	0	4	0	▲4	8	0	▲8		・過去5年間の実績なし (前計画と同様に見込む)	0	4	8	
	人	0	0	0	1	0	▲1	2	0	▲2			0	1	2	
障害児 入所支援	福祉型児童入所支援	人			0			0			0		県、政令市			
	医療型児童入所支援	人			0			0			0		県、政令市			
相談支援(※)	障害児相談支援	人 年間	456	381	▲75	496	447	▲49	526	523	▲3	○	・R2年度は実績見込 ・R3年度以降は、過去3年間(H30~R2)の平均伸び率にて算出 (H28まで著しい増加)	596	679	774
医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置人数		人	2	2	0	2	2	0	2	2	0			2	2	2